

戦前における手工科の中等教員検定試験について（1）

宮崎擴道*・澤本 章・平田晴路**

A Study on The State Examination for Secondary School Teachers of
Mmanual Arts in Pre-War Japan（1）

MIYAZAKI Hiromichi*, SAWAMOTO Akira, HIRATA Seiji**

(Received September 24, 2010)

1. はじめに

戦前の中等学校教員資格取得の方途としては高等師範学校、女子高等師範学校や臨時教員養成所による養成の他に、文検と俗称される文部省師範学校中学校高等女学校教員検定試験があった。この教員検定試験は明治17（1884）年8月制定の中学校師範学校教員免許規程（文部省達第8号）によって法制化され、翌明治18（1885）年の第1回から昭和18（1943）年の第77回まで行われたが、この間一時期を除きおおむね毎年実施された。また試験は明治29（1896）年から尋常師範学校尋常中学校高等女学校免許規則によって、地方で実施される予備試験と東京で実施される本試験の2段階制となった。

一般的には中等教員養成に関する史的研究は遅れていたが、この文検については寺崎らによる「文検」研究会¹⁾や船寄²⁾などの研究によって急速に進んでその全体像が見え始めている。しかし手工科の文検に限って云えばこれを正面から扱った研究はまだ少ない。文検は独学者を対象とする教員国家資格試験であったから、手工科の文検出題問題の内容は受験者に対して手工科教員として求められた知識、技能が対象となったはずである。従って文検問題の内容とその検討は手工教育研究上で重要な情報を与えるものとなるが、手工科の文検問題の詳細に関する報告は管見の限り見あたらない。このため本稿では手工科の中等教員養成に係わる研究の一環として文検出題問題を取り上げた。

2. 手工科文検問題の確認

手工科文検問題の調査には手工研究誌および学校美術誌などの手工教育に関する機関誌や教育雑誌の他に受験対策書³⁾を典拠文献として用いた。文検は明治29（1896）年から予備試験と本試験の2段階制となったが、表1は典拠から抽出した本試験に関する出題問題である。予備試験問題については紙面の都合で次報以降で取り上げたい。また問題は典拠によって片仮名や平仮名で表記されるなど不統一であるが、本稿では読み易さを考慮して一応全問を平仮名で統一した。なお一部固有有名詞などは片仮名を残したし用器画や粘土細工などの図は省略した。また問題表記が異なる場合には手工研究誌を優先した。

* 山口大学名誉教授 ** 岡山大学教育学部

表1 本試験問題

回	年	
1	明18	工業 (内容不明)
2	19	工業 (内容不明)
3	20	手工科は実施せず
4	21	手工科は実施せず
5	24	(口述) 第一問 普通学校に於て手工科を課す目的如何 第二問 師範学校にて金工を課するとせば如何なる目的にて如何なる物品を製作せしむるや 第三問 木工に於ては如何なる物品を如何なる順序にて製作せしむるや 第四問 手工科は目の練習美育に效あるは何故なるか 第五問 手工科は知育と関係あるや其の関係は如何 (実地) 第一問 ソクイ板ソクイ篋を作らしむ
6	26	(口述) 第一問 小学校に於て手工科を課するの目的如何 第二問 小学校に於て手工科を課するとせば尋常科に於ては如何なる方法にて如何なる仕事をなさしむるや、又高等科に於ては如何 第三問 小学校の手工科教室に於ては、如何なる物品の準備を要するや 第四問 師範学校に於て課する手工の木竹の細工に於ては如何なる標本を選定するや 第五問 師範学校に課する金工は如何なる方法を以て之を授くるや 第六問 鉋鑿鋸の手入法を問ふ 第七問 鑪の目立焼入れ方白鐵及真鍮の鑲付法を問ふ (実地) 不明
7	27	(口述) 第一問 小学校に於て手工を課する目的如何 第二問 小学校に於て手工を課するとせば尋常科に於ては如何なる仕事を課するや又高等科に於ては如何 第三問 粘土細工、厚紙細工は如何なる方法にて之を課するや 第四問 木竹の細工は如何なる方法にて之を授くるや又如何なるものを如何なる順序に製作せしむるや 第五問 師範学校に於て課する金工は如何なる方法にて之を授くるや 第六問 小学校の手工教室に於ては如何なる物品の設備を要するや木竹の細工に要する工具は生徒の数を仮定し其の種類及数を記せしむ 此の他木工工具の手入法鑲付法焼入れ方等に就き試問す (実地) 第一問 煙草盆の図案を作らしめ之を製作せしむ 第二問 「ブリキ」のシャボン入れを製作せしむ
8	28	(口述) 第一問 小学校に於て手工を課する目的如何 第二問 小学校に於て手工を課するとせば尋常科に於ては如何なる仕事を課するや又高等科に於ては如何 第三問 粘土細工、厚紙細工は如何なる方法にて之を課するや 第四問 木竹の細工は如何なる方法にて之を授くるや又如何なるものを如何なる順序に製作せしむるや

		<p>第五問 師範学校に於て課する金工は如何なる方法にて之を授け如何なる物品を製作せしむるや</p> <p>第六問 小学校の手工教室に於ては如何なる物品の設備を要するや木竹の細工に要する工具は生徒の数を仮定し其の種類及数を記せしむ 此の他木工工具の手入法鑢付法焼入れ方等に就き試問す</p> <p>第七問 手工を授くるに当り他の学科と異りて特に注意すべき事項を述べよ (実地)</p> <p>第一問 硯箱を製作せしむ (寸法形は随意)</p> <p>第二問 墨壺を製作せしむ (標本を示す)</p> <p>第三問 炭取の図案を作らしむ</p>
9	29	<p>(口述)</p> <p>第一問 小学校に於て手工を課する目的如何</p> <p>第二問 小学校に於て手工を課するとせば尋常科に於ては如何なる仕事を課するや又高等科に於ては如何</p> <p>第三問 粘土細工、厚紙細工は如何なる仕事なるや又如何なる方法にて之を課するや</p> <p>第四問 木竹の細工は如何なる方法にて之を授くるや又如何なるものを如何なる順序に製作せしむるや</p> <p>第五問 師範学校に於て課する金工は如何なる方法にて之を授け如何なる物品を製作せしむるや</p> <p>第六問 小学校の手工教室に於ては如何なる物品の設備を要するや木竹の細工に要する工具は生徒の数を仮定し其の種類及数を記せしむ 此の他木工工具の手入法鑢付法焼入れ方等に就き試問す</p> <p>第七問 手工を授くるに当り他の学科と異りて特に注意すべき事項を述べよ (実地)</p> <p>第一問 額縁を作らしむ (標本を示し製作図を描かしむ)</p> <p>第二問 竹の茶合を作しむ (標本を示す)</p> <p>第三問 金属製鉛筆挾を作ラシム (標本を示す)</p>
10	30	<p>(口述) 第一問 小学校に於て手工を課する目的如何</p> <p>第二問 小学校に於て手工を課するとせば尋常科に於ては如何なる仕事を課するや又高等科に於ては如何</p> <p>第三問 粘土細工は如何なる方法にて之を授け如何なる物を作せしむるや</p> <p>第四問 厚紙細工は如何なる仕事なるや如何なる方法にて之を授け如何なるものを作らしむるや</p> <p>第五問 木竹工は如何なる方法にて之を授け其の標本を選定するには如何なる主義に依るや</p> <p>第六問 木竹工に要する工具の名を挙げよ</p> <p>第七問 師範学校に於て課する金工は如何なる方法にて之を授けるや</p> <p>第八問 手工教室は如何に之を設け又如何なる物品の準備を要するや (実地)</p> <p>第一問 方形の煙草盆の図を引かしめ且つ之を製作せしむ</p> <p>第二問 標本を与へて竹の状差を作せしむ</p> <p>第三問 ブリキ製漏斗を作らしむ</p> <p>第四問 文鎮を作らしむ</p>
11	31	<p>(口述)</p> <p>第一問 普通学校に於て手工科を課す目的如何</p> <p>第二問 小学校尋常科及高等科を通して折紙切抜及糊細工を課するに如何なる物品を如何なる順序にて製作せしむるや</p> <p>第三問 師範学校に於て木工及金工を課する方法如何</p> <p>第四問 小学校に於ける手工教室の構造及備付品は如何</p> <p>第五問 手工を授くるに当り特に注意すべき事項を述べよ</p>

		第六問 木工具（鉋鋸）の手入法如何 第七問 鑢付法及焼入法如何 （実地） 第一問 天秤組（木工） 第二問 真鍮製直角定規
12	32	（口述） 第一問 手工科の目的 第二問 手工の種類を選定及其の教授の順序方法 第三問 手工教室の設備及其の備品 第四問 鉋鋸の構造 第五問 直角定規に依らずして正しき長方形板を製するには如何にせば可なるや 第六問 幅一寸内外及某の厚さある板を尺度を用ひずして幅厚とも正しく一樣になすには如何にするか （実地） 第一問 四十五度及六十度定規 第二問 木矩 第三問 黄銅製墨斗 第四問 鉄製文鎖
13	33	（口述） 第一問 手工科の目的 第二問 小学校に於て課する手工の種類及其の順序方法 第三問 師範学校に於ける手工教育の教授方法 第四問 手工教室の設備及其の備品 第五問 鉋及鋸の構造及手入法 第六問 長方形板を製する順序方法 第七問 鑢付法 （実地） 第一問 箱止包蟻指口 一個 第二問 ピンタ止指口 同上 第三問 正方柱形鉄條 同上 第四問 護謨管挟 同上 第五問 環 同上
14	33	実施なし
15	34	実施なし
16	35	実施なし
17	36	実施なし
18	37	実施なし
19	38	第一問 小学校の教科に手工を加ふるの必要なる所以を論説せよ 第二問 師範学校に於ける手工科教材の選択及排列に関して意見を述べ、併せて其の教材排列の大綱を表示すべし 第三問 厚紙を以て底辺一寸高さ二寸の正五角錐体を作らんとするときの剖展図（展開図とも云ふ）を畫け 第四問 左の条項により花瓶台の図案を作れ 材料 紫檀 寸法 上面方六寸高さ任意 構造裝飾 任意 描法 自在画用器画若くは自在画用器画併用任意但し主要の線には墨を用ふべし

		注意 三四問は別に交付する画用紙に鉛筆を以て認むべし
20	39	<p>第一問 木工 文具箱</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 材料 桐 2. 形、形状、大さ 図面通り 3. 構造、木厚及指口任意 <p>第二問 金工 墨壺</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 材料 銅 2. 形状、大さ 大略見本に準じ各自任意に定むべし 但し胴の接合には真鍮鑢を用ひ底の接合には白鑢を用ゆべし <p>第三問 粘土彫刻 椿の折枝</p> <p>標本を与へて之を模写せしむ</p>
21	40	<p>第一問 木工 杯箱</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 材料 桐 (2) 形状 四角形 (3) 大 一辺の長さ四寸 総高さ二寸 木厚、実蓋の深さの割合、底の上り等任意 (4) 構造 印籠蓋 指口止 <p>第二問 金工 杯</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 材料 真鍮 (2) 形状及大さ任意 (3) 構造 糸底の接合真鍮鑢付、同取付鑢付 <p>第三問 粘土細工 椿の折枝</p> <p>左の図を薄肉若くは中肉の彫刻物に製すべし</p>
22	41	<p>第一問 木工 内容不明</p> <p>第二問 金工 錠前</p> <p>第三問 粘土細工 柿の折枝</p>
23	42	<p>第一問 木工 客用煙草盆</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材 桜 2. 形状及構造 任意但し接合は上部を留となし以下の部分を適宜に組むべし 3. 大さ任意 <p>(右時間、午前八時より午後三時三〇分に至る)</p> <p>第二問 金工 火箸</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材及構造 全体を鉄にて作り上部に銅板を被す 2. 大さ及装飾 任意 (右時間、午前八時三〇分より午後三時三〇分に至る) <p>第三問 粘土細工 胡瓜</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本図に依り高肉又は中肉に彫刻すべし 但し本図は大体を示すに止まるを以て細密なる部分は自己の考案に依りて作るべし、 又大略本図の一倍半に拡大するを要す (右時間は午前八時より午後二時までとす)
24	43	<p>第一問 木工 被せ蓋文具箱</p> <ol style="list-style-type: none"> 一、材料 桐 一、大さ及構造見本に準ず <p>注意 先ず工作図を描き次に之に基きて製作すべし</p> <p>第二問 金工 墨壺</p> <ol style="list-style-type: none"> 一、材料 真鍮 一、大さ及構造 口径一寸七分深さ六分蓋及懸板の形状任意 <p>注意 但し側板の接合は真鍮鑢付として他は白鑢付とすべし</p> <p>第三問 粘土細工 槭の小枝の写生 但し葉を凡て三ヶとして実物より大とすべし</p> <p>注意 一 平面板上に薄肉中肉或は高肉に彫刻すべし</p>

		<p>二 臺板の厚さは凡そ五分とし其の大き及形状は任意とす</p> <p>三 予め図案を描き次に之に基きて製作すべし</p>
25	44	<p>第一問 木工 左記の条件に適したる被蓋料紙箱を作れ</p> <p>蓋 長さ外側八寸五分 巾外側六寸五分 高さ外側一寸二分</p> <p>実 高さ外側一寸二分</p> <p>接合と装飾及び板の厚は任意にして内部の構造は標本通</p> <p>用材 桐柁目板</p> <p>第二問 金工 左記の条件に適したる被蓋円形墨壺を作れ</p> <p>蓋 直径外側二寸 高さ外側一分 実 高さ外側五分</p> <p>但し実の外側の接合は黄銅鑢にて其の他の部分は白鑢にて接合し内部の構造は標本の通り</p> <p>用材 黄銅板</p> <p>第三問 粘土細工</p> <p>別に与ふる所の実物にて薄肉若しくは中肉に彫刻すべし (椿の花の折枝) 彫刻すべき臺は凡そ四寸計り長方形板にすべし</p> <p>第四問 教授法 (口頭)</p> <p>日本の手工書に就て知れる所の書を掲げ其の書物の要点を解説せよ</p>
26	大1	<p>第一問 木工実地</p> <p>1. 印籠蓋硯箱を作れ 但し形状構造は成るべく各自考案すべし</p> <p>第二問 金工実地</p> <p>1. 裏錠を作れ 但し裏錠の形状構造は各自に与ふる標本によりて製作し而して其の裏錠は各自に与ふる錠に合すべし用材は銅板黄銅板鉄棒</p> <p>第三問 粘土細工</p> <p>1. 各自に与ふる花により薄肉若しくは中肉を彫刻せよ、但し三枚以上の葉と実をつくべし、彫刻すべき臺は凡そ五寸と四寸許の長方形板とす 用材は粘土</p> <p>第四問 教授法</p> <p>1. 師範学校に於いて手工を教授せんとする各自の方案を述べよ</p>
27	2	<p>第一問 木工</p> <p>1. 印籠蓋掛軸入の箱を作れ 但し外側長さ一尺八寸 側巾二寸六分 外側高さ 蓋と身と合せて二寸四分、規定外のことは凡て任意とす</p> <p>第二問 金工</p> <p>1. 鉄葉板漏斗、鑿、黄銅環を作れ 但し漏斗は白鑢付環は黄銅鑢付、鑿は焼入れすべし</p> <p>第三問 粘土細工</p> <p>1. 各自に与ふる蕪菁を標本として粘土を薄肉若しくは中肉に彫刻せよ 但し臺は大き五寸に六寸の長方形板</p> <p>第四問 教授法</p> <p>1. 師範学校にて手工教授の各自の方案を述べよ</p>
28	3	<p>一問 組立本棚</p> <p>1. 寸法標本通りとす</p> <p>2. くり方透し等の形状は各自の意匠に任す</p> <p>3. 製作に使用したる図 (略図) を製品に添へて差出すべし</p> <p>第二問 銅被鉄火箸</p> <p>(注意) 1. 鉄角棒を以て全体を作り上部に銅を被すべし</p> <p>2. 長さ一尺二寸太さ及び形状は各自の任意に任す</p> <p>第三問 猫の肉合彫刻</p> <p>(注意) 1. 与へたる図を用ひて大体を定むるも差支なし</p> <p>2. 肉合は薄中高任意とす</p> <p>第四問 教授法 (口述)</p> <p>1. 現今小学校及び師範学校手工教授に於て訓練上特に注意すべき点について思ふ所を</p>

		述べよ
29	4	<p>第一問 木工（八時間） 額縁 与へたる材料を用ひて左記条件に応ずる額縁を作れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外側 長さ一尺六寸 巾一尺三寸五分 2. 四隅 接合随意 但し表面を留となすこと 3. 縁の厚さ巾面の形状 各自考案に任ず <p>第二問 金工 金盃小形（八時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 材料 与へたる銅板銅針金 2. 大きさ形状及び構造、見本に準ず <p>第三問 粘土細工 菖蒲</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 形状 与へたる図に準ず 2. 大きさ 与へたる図の約一倍半 3. 肉合 各自の考案に任ず <p>第四問 教授法（口述）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校手工教授に於て訓練上最も注意を加ふべき点如何 2. 師範学校に於ける手工科教授につきて各自の方案を述べよ
30	5	<p>第一問 木工 製図板</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材 檜 2. 構造 端嵌蟻指 3. 大きさ 長さ一尺八寸 巾一尺四寸 <p>但し厚さ端嵌の幅及蟻の寸法任意</p> <p>第二問 金工 蠟燭立て</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材 銅 2. 構造及意匠 上部なる蠟燭の図は見本の通り（但し真鍮鑲付）とし其の他は各自の意匠に任ず 3. 大きさ高さ 見本の準ず、其の他の部分は任意とす <p>第三問 彫刻 木蓮の花</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材 粘土 2. 形状 与へたる図に準ず 3. 大きさ 臺板の長さ九寸五分巾七寸厚さ任意 4. 肉合 各自の考案に任ず <p>第四問 教授法（口述）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現今小学校手工教授につきて改善すべき点なきか 2. 女子師範学校に於ける手工科教授につきて各自の方案を述べよ
31	6	不明
32	7	<p>第一問 与へたる見本に準じ客室用巻煙草箱を製作せよ （材料桂板、接合法任意） 約十時間</p> <p>第二問 与へたる見本に準じ裏錠を製作せよ 但錠前の裏面は白鐵附とし錠は真鍮鑲付とす（材料 銅・真鍮・鉄併用） 約八時間</p> <p>第三問 与へたる図に準じ芙蓉の図を彫刻せよ 但板の大きさは長八寸幅六寸とし肉合は任意とす（材料普通の粘土） 約三時間</p> <p>第四問 戦後教育上特に手工科発展の必要なる所以及其の発展策につき思ふ所を述べよ（試問）</p>
33	8	<p>実地</p> <p>第一問 木工（八時間） 提工具箱</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大きさ 長さ外法 一尺一寸 幅外 深内法 二寸五分 板厚三分五厘 代上四分以下 2. 構造 見本に準ず <p>（注意）先ず見取図を書き之に基きて作るべし</p>

		<p>第二問 金工（八時間） 切出小刀</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 形状 任意 2. 大さ 成るべく大形なるを可とす (注意) 先ず見取図を書き之に基きて作るべし <p>第三問 粘土細工（四時間） 南瓜の花の肉合彫刻</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 形状 与へたる図に準じ平面粘土板上に彫刻 2. 大さ 臺板の長さ七寸、幅五寸、厚さ任意とすべし但肉合は薄肉、中肉、高肉等任意とす <p>口頭試問</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男女師範学校の手工教授に於て生徒自身の実技に熟練せしむると小学校の手工教授に熟達せしむるとは何れを必要とするにや関し意見を問ふ 2. 農業の副業と手工教授との関係を述べよ
34	9	<p>第一問 木工（九時間） 標本箱</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材 桧 2. 寸法 (外法) 長さ九寸五分、幅七寸五分、全高五寸五分、木厚二分五厘乃至三分 3. 構造 見本に準ず但し組手は三枚組になすこと <p>第二問 金工（六時間） 五徳</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材 鉄 2. 寸法 見本に準ず 3. 構造 上部の環は見本の通りとし脚部は各自任意に任す <p>第三問 粘土細工（四時間） 向日葵の花</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材 粘土 2. 寸法 臺の長さ一尺五分、幅七寸五分、厚さ任意 3. 肉合 陰中高任意 <p>第四問 教授法</p> <p>現今手工科教授の改善上手工科教師の努力すべき点につき所思を述べよ</p>
35	10	<p>第一問 木工（七時間） 標本箱</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材 桂板 2. 寸法 (外法) 長さ九寸五分、幅七寸五分、全高五寸八分 木厚任意 3. 構造 見本に準ず <p>第二問 金工（六時間） 与へたる材料を適当に用ひて左の三種の製作をなせ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プリキ掛銅（白鍍付）構造見本に準ず 2. 壺金附黄銅環（真鍮鍍付）環の外径一寸八分 3. 鉄環鍛合環の外径凡二寸七分 <p>第三問 粘土細工（三時間） 菖蒲彫刻</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材 粘土 2. 寸法 臺の長九寸五分、幅七寸、厚さ任意 菖蒲の大きさ之に準ず 3. 肉合 薄肉、中肉、高肉任意 <p>第四問 教授法（口述）</p> <p>手工教育上、創作と模倣との優劣を比較、詳論し且つ此の二者の按排に対して意見を述べよ</p>
36	11	<p>第一問 木工 提箱（六時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材 桂材 2. 寸法 (外径) 高さ六寸、前幅四寸三分、横幅四寸八分、木厚任意 3. 構造 見本に準ず 4. 製作に用たる図は製品に添えて差出べし <p>第二問 金工 錨形吊（四時間）</p> <p>鍛合及真鍮鍍付</p>

		<p>1. 用材 鉄及真鍮 2. 寸法 見本に準ず 3. 構造 見本に準ず</p> <p>第三問 粘土細工 百合花の肉合彫（三時間） 1. 寸法 与へたる図の約一倍半 2. 肉合 各自の意に任ず</p> <p>第四問 教授法（口述） 経費節約上の見地より製作材料及設備上注意すべき点如何</p>
38	12	<p>第一問 木工 額縁（六時間） 1. 用材 桧一寸板 2. 寸法（外法）長さ一寸五寸、幅一尺二寸、縁材幅、厚さ任意とす （注意）製作に用ひたる図は製品に添へ差し出すべし</p> <p>第二問 金工 文鎖（六時間） 1. 用材 鉄及真鍮 2. 構造 胴平角に火作りして仕上を施すこと適形状任意 3. 寸法 各部とも任意に定むべし （注意）製作に用ひたる図は製品に添へて差出すべし</p> <p>第三問 粘土細工（自由選題） 肉合彫刻（四時間） 1. 寸法 臺長さ九寸 幅六寸五分其他任意 2. 肉合 各自の意に任ず （注意）製作に用ひたる図案を提出すると否とは任意とす</p> <p>第四問 教授（口述） 現下我国手工教育の普及改善上教師の最も努力を要すと思ふ事項三ヶ条を指摘して其の理由を述べよ</p>
40	13	<p>第一問 木工（六時間） 与へたる材料を適当に用ひ左の要項に準じて本立を作れ 1. 寸法 前幅一尺三寸、其他任意 2. 意匠及構造任意 但し釘を与ふる場合は木釘とす 3. 製作に使用したる図は製品に添へて差出すこと</p> <p>第二問 金工（六時間） 左の要項に従ひ手提金具を作れ 1. 提環 鉄鍛合付 2. 取付座金 銅真鍮鑢 3. 大き形状 見本に準ず</p> <p>第三問 粘土細工（三時間） 長さ九寸、幅七寸の臺板上に左の彫刻をなせ 1. 八手の帯一枚を注意に置くこと 2. 檜様及肉合任意 3. 下絵製品に添へて出すこと</p> <p>第四問 教授法（口述） 我が普通教育に於ける手工教育と芸術教育との関係に就きて所思を述べよ</p>
42	14	<p>第一問 左に要項により見本の如く手箱を作れ（五時間） 1. 材料 杉並六分板 2. 大き 長さ九寸五分（外法） 幅七寸五分（外法） 深さ五寸五分（内法）木厚二分五厘、但蓋の棧及び脚基は寸法任意 3. 接合法 三枚組方に依り木釘及汲押糊を用ふること</p> <p>第二問 与へたる材料を以て二種の製作を為せ（四時間） 甲 鉄製直角定規（鍛工）大き見本に準ず 乙 真鍮板掛環（真鍮鑢付）大き内径六分、幅四分</p> <p>第三問 与へたる葉二枚（犬イチゴ）に板を適当に配して之を粘土板上に彫刻せよ</p> <p>第四問 教授法（口述） 師範学校手工科教員として生徒教養上の要項につきて意見を述べよ</p>

44	昭1	<p>第一問 木工（七時間） 左の要項に従ひて手工工具箱を作れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寸法（外法）長さ一尺五分 幅六寸二分 高さ三寸 印籠約三分 木厚任意 2. 構造 見本に準ず 釘は木釘とす <p>第二問 金工（六時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鉄棒を以て額掛用打釘を作れ 但し寸法は頭部一寸脚部三寸五分太さ二分角とす 2. 鉄葉を用つて見本の如き水呑を作れ 但し寸法は口径二寸、底の径一寸五分、高さ二寸八分とし把手の形状及大きさは任意とす <p>第三問 粘土細工（三時間半） 左の要項に従ひ粘土板上に任意の花卉一種を彫刻せよ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臺板長さ九寸、幅六寸の長方形 2. 図の様式及び肉合任意 <p>第四問 教授法（口述）</p> <p>高等小学校令改正の趣旨の徹底を計るため師範学校手工科担当教師の特に努力を要すると思惟する事項を詳述せよ</p> <p>備考 第一問第二問第三問に於て製作に使用したる図は何れも製品に添へて差出すべし</p>
46	2	<p>第一問 木工（七時間） 塗師定盤</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材 杉 2. 寸法 実箱長さ九寸五分（外法）、幅六寸五分（外法）、深さ二寸五分（内法）、被蓋深さ一寸、長さ及幅は実に応ず 3. 構造 側板、接合、実三枚組、蓋相欠組、但し木厚は各部とも二分五厘乃至三分とす <p>第二問 金工（五時間） 銅張鉄火箸</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材 鉄と銅 2. 寸法 全長さ九寸、頭部の銅張は真鍮鑢付とす、但し頭部に限り銀鑢付となすも可なり <p>第三問 彫刻（三時間） 草莓の葉</p> <p>与へたる葉二枚を適宜に配して長さ八寸幅六寸の長方形粘土上に之を浮彫せよ</p> <p>第四問 教授法（口述）（約三分間）</p> <p>我が国目下の手工教育をして振興徹底せしむるには如何にすべきか</p>
48	3	<p>第一問 木工（七時間） 写生箱の作業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寸法 長さ一尺 幅八寸 深さ上部一寸四分 底部一寸八分 2. 木厚 各部とも約三分 3. 接合部上部相欠組、底部三枚組 4. 見本に準じ金具を付着すること <p>第二問 金工（六時間） 客火鉢用火箸の製作</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 材料 頭部真鍮、脚部鍛鉄 2. 形状及寸法 図の通り 3. 頭と脚との接合丸柄入銀鑢付 4. 鑢仕上着色任意 <p>第三問 粘土彫刻（三時間半） 百合花</p> <p>長さ九寸の長方形粘土板上に百合花一本を浮彫にせよ</p> <p>第四問 教授法（口述）</p> <p>高等小学校に於ける手工科と工業科との異同を弁ぜよ</p>
50	4	<p>第一問 木工（七時間） 額縁</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材 栓 2. 寸法 長さ一尺三分、幅一尺三寸 縁材幅一寸三分 厚八分 3. 構造 見本に準じたる柄差接合 但し縁材の表面は蒲鉾形とす <p>第二問 金工（六時間） 火箸、金盃</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 与へたる鉄片を打延して火箸を作れ 但し長さを一尺とし形状は任意とする

戦前における手工科の中等教員検定試験について（1）

		<p>2. 与へたる板金を用ひて口径五寸五分深さ一寸六分の金盥を作れ</p> <p>第三問 粘土彫刻（三時間） 人体の一部 各自の左手を写生して縦九寸、幅七寸の粘土板上に粘土を以て之を彫出せよ 但し彫刻の様式は任意とす</p> <p>第四問 教授法（口述） 児童の個性尊重の意義と手工教育との関係を述べよ</p>
52	5	<p>第一問 与へられたる栓板を用ひ左の要項に準じて料紙箱を作れ（七時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 構造 印籠蓋接合法見本に準ず 2. 寸法、長さ三十三糎、幅二十二糎、板の厚八糎乃至一糎、高さ八糎（実五糎、蓋三糎） 但し印籠の立上りの高さ及厚さは任意とす <p>第二問 与へられたる鉄丸棒を用ひて火鉗（ヤットコ）を作れ（七時間） 但し長さ二十五糎とし其他の寸法は任意とす</p> <p>第三問 任意の考察に依り与へたる粘土を以て灰皿を作れ（三時間） 右第一、第二問各七時間、第三問は三時間</p> <p>第四問 教授法（口述）（約五分） 手工教育の郷土化について考ふる所を述べよ</p>
54	6	<p>第一問 木工（七時間） 左の要項に依り標本箱を作れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用材 栓板 2. 構造 前蓋端嵌付建具接合見本に準ず 3. 寸法 前幅 三十糎、側幅二十五糎、高さ三十糎、木厚、裏板を七糎とし其の他一糎とす 4. 蓋の適當の位置に金具をつける <p>第二問 金工（七時間） 与へたる材料を用ひて切出小刀（付鋼）を作れ 但し大きさは長さ十七糎とし其の他任意</p> <p>第三問 粘土細工（三時間半） 左の要項により与へたる材料を用ひて菓子鉢を作れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 形状大き任意 2. 裝飾として任意の彫刻を施すべし <p>（注意）各問の製作品に作図を添えて差出すべし</p> <p>第四問 教授法（口述）（五分間） 国産振興と手工教育との関係を述べよ</p>
56	7	<p>第一問 木工（七時間） 与へられたる材料を以て組立式本棚を作れ、但し棚二段四六判利用とす</p> <p>第二問 金工（七時間） 左の要項により与へたる材料をもつて手燭を作れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 形状大き任意 2. 線金接合は真鍮を用ふること <p>第三問 粘土細工（四時間） 長さ二十八糎幅二十糎の粘土板上に示したる草花を浮彫せよ 児童生活と手工教育との関係につきて述べよ</p> <p>第四問 各作品には製図をそへて差出すべし</p>
58	8	<p>第一問 木工（七時間） 被蓋文筥</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 蓋の甲板幅仕上り寸法二十八糎 2. 側板接合三枚組木釘付 3. 右の外は恰好よくすること <p>第二問 金工（七時間） カリパス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長さ十五.五糎 2. 右の外は見本に準拠 <p>第三問 粘土細工（四時間） 獸類の頭部</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長さ二十五糎、幅十八糎の粘土板上に任意に作れ <p>第四問 口述試験（五分） 創作教育実施上注意すべき事項三つを挙げて説明せよ</p>

60	9	第一問 木工（七時間） 与へられたる板を以て所定の時間内に任意の物品を考案して作れ 第二問 金工（七時間） 与へられたる材料を以て所定の時間内に火鉗を考案して作れ 第三問 粘土細工（四時間） 長さ二十五糎幅十八糎の粘土板上に任意の水禽を浮彫せよ 第四問 口述試験 手工科と作業科の異同を述べよ
62	10	第一問 木工 燕止 桂 第二問 金工 水入 真鍮蠟付・銀蠟付併用 第三問 粘土 任意の胸像 第四問 農村工業化と手工教育との関係に付いて
64	11	第一問 木工（七時間） 抽斗附本立 但し与へたる板を以て成るべく大きく製図して作れ 第二問 金工（七時間） コンパス 但し見本に準じて全長十七糎に製図して作れ 第三問 粘土細工（七時間） 紫陽花ノ浮彫 但し長さ二十五糎幅十八糎の粘土板上に示したる折枝を参考して表せ 第四問 口述試験（五分間） 手工に於ける創作の心理過程について述べよ
66	12	第一問 木工 与へられたる材料を以て五糎角、長さ四五糎の方柱二本を作り、それを更に八糎毎に一本は縦一本は横に鋸断せよ 第二問 金工 与へられたる材料を以て全長二〇糎の果物用ナイフを作れ 第三問 粘土 任意の資料を以て長さ二五糎幅一八糎の粘土板上に単独模様を浮彫せよ 第四問 口述（五分間） 労作教育に就いて考ふる所を述べよ（五分間） 労作教育に就いて考ふる所を述べよ
68	13	第一問 木工（七時間） 与へられたる板を最も有効に使用して実用的なるものを考案製作せよ 第二問 金工（七時間） 与へられたる材料を最も有効に使用して折釘一對を考案製作せよ 第三問 粘土（四時間） 自分の手をモデルにして彫塑せよ 第四問 口述試験（五分間） 師範学校手工科経営について抱負を述べよ
70	14	第一問 木工（七時間） 書斎用屑箱を図案製作せよ 但し材料は与へられたる分量に限る 第二問 金工（七時間） 見本に準じて小刀を製図製作せよ 第三問 粘土（四時間） 「あかんさす」を模刻せよ 第四問 口頭試問（五分間） 手工教育に於ける作り方と教へ方の相違点を説明せよ
72	15	第一問 木工（七時間） 把手附サービス盆を考案、製図、製作せよ 第二問 金工（七時間） 直角定規を製図製作完成せよ 第三問 粘土（四時間） 内容不明 第四問 口述 内容不明 第五問 機械の取扱ひ（72回から出題されたもので、旋盤等の操作法を短時間）
74	16	第一問 木工（七時間） 与へられたる材料により稜長十五糎の立方体を作れ 第二問 金工（七時間） 与へられたる材料を用いてカリパス（外）を製図、製作せよ 第三問 機械（十五分間） 金工旋盤の操作 第四問 粘土（四時間） 棒を握りたる手を写生せよ 第五問 口述試問（五分間） 師範学校に於ける機械に関する教材体系に就て私案を述べよ
76	17	不明

3. まとめ

本稿は普通教育における技術教育である手工科の中等教員養成の実態を解明しようとする研究の一環に位置づくものである。文検の個別科目についての出題問題は寺崎昌男ら「文検」研究会により公民、教職科目、英語、数学、歴史、家事及裁縫、国語⁴⁾が、また小笠⁵⁾、鈴木⁶⁾、小田⁷⁾、井上⁸⁾、邵⁹⁾、小笠原¹⁰⁾、茂住¹¹⁾などで個別に収集、検討されているが、本稿で取り上げた手工科の文検問題の詳細については従来明らかにされていなかった。

このような研究状況の中で今回一部の不明年度はあるものの、手工科文検の予備試験問題と本試験問題のほぼ全容を把握できた。またこの出題問題を整理する過程で以下のことが確認できた。一つは文検の実施に関するもので技術教育に関連する科目は第1回から第2回までは工業が実施されていたが第3回から手工が設置されたこと。ただし第3回と第4回および第14回から第18回までは手工科の文検そのものが実施されていないし、第7回以降は工業は外され、また第58回からは作業科が試験科目に加えられたこと。第二は手工科の試験方式に関してで文検は第10回から予備試験と本試験の二段階制となるが、手工科がこの方式で実施されるのは第19回からであったこと。第三は手工の試験形態についてで第5回から第13回の試験は本試験のみが実施され、その出題は口述と実地の形式で行われたこと。そして第19回から第24回までの本試験では実地試験のみが出題され口述は予備試験で出題されていたが、第25回の本試験からは口頭試問として教授法が出題されるようになったことである。

今回は各回ごとの具体的な出題内容の把握が重点であったが、今後は時代経過と試験科目、出題内容、出題分野などの変遷や試験委員とその学説及び試験問題内容の分析などが残された課題となる。また受験者側から見た文検の実態、受験者の職歴、受験動機、合格者の動向も明らかにされる必要があるがこれらは次報以降で検討したい。

参考文献

- 1) 「文検」の研究—文部省教員検定試験と戦前教育学 学文社 平成9 (1997)、「文検」試験問題の研究—戦前中等教員に期待された専門・教職教養と学習 学文社 平成15 (2003)
- 2) 船寄俊雄 中等教員試験検定制度史研究 (第2報) —試験検定の日程について— 大阪教育大学紀要第IV部門 38巻2号 平成11 (1990)
- 3) 日高長平 文検手工科準備の指導 昭和6 (1931)、田村良三 文検手工科の新研究 昭和10 (1935)、大和喜栄 文検作業科手工科独学受験法 昭和9 (1934)
- 4) 「文検」の研究—文部省教員検定試験と戦前教育学 学文社 平成9 (1997)、「文検」試験問題の研究—戦前中等教員に期待された専門・教職教養と学習 学文社 平成15 (2003)
- 5) 小笠原拓「文検国語科」の研究 (1) —その制度と機能について— 鳥取大学地域学論集 第4巻 第1号 平成19 (2007)
- 6) 鈴木正弘 『文検』歴史科について—概要と足跡 比較文化史学会編 比較文化史研究第1号 平成11 (1999)
- 7) 小田義隆 戦前日本における『文検』歴史科試験問題の分析 日本教師教育学会編 日本教師教育学会年報 第9号 平成12 (2000)
- 8) 井上えり子 中等学校家事科教員検定試験研究 (第1報) —「文検家事」の機能 日本家庭科教育学会編 日本家庭科教育学会誌 第44巻第3号 平成13 (2001)
- 9) 邵艶 「文検支那語」に関する研究ノート—戦前中国語教員養成の一断面 日本教育学会編 教育学研究 第72巻第1号 平成17 (2005)

- 10) 小笠原拓 「文検国語科」の研究 (1) —その制度と機能について— 鳥取大学地域学論集第4巻第1号 平成19 (2007)
- 11) 茂住實男 文検英語科で問われた英語の教授法 拓殖大学語学研究 第120号 平成21 (2009)